

IOSCOによる「投資ファンドの終了に関するグッドプラクティス市中協議文書」の公表について

証券監督者国際機構（IOSCO）は、本日、投資ファンドの任意終了に関するグッドプラクティスをまとめた「投資ファンドの終了に関するグッドプラクティス」と題する市中協議報告書（以下、「本報告書」という。）を公表した。

IOSCO は、投資家保護の観点から、投資ファンドが終了計画を備えることの重要性を認識している。投資ファンドの終了の決定は、終了過程におけるコスト面ないしは適時に持分を償還する能力といった観点から、投資家に重大な影響を与えうる。個人及び機関投資家は、投資ファンドの終了時における持分の最終価値の影響を受ける。本報告書は、集団投資スキーム（CIS）、コモディティファンド、REIT、ヘッジファンド等を含む幅広い投資ファンドを対象としている。

殆どの規制体制が、その法域において、投資家利益の最大化を実現するための包括的な義務から、ポートフォリオの流動化及び払い戻しの方法に関する規範的な要件まで、投資ファンドの終了に関するいくつかの基準を設けている。しかしながら、多くの法域における国家レベルの法律は、非自発的な終了には対処している（例：投資ファンドが破たんした場合）。

IOSCO の作業は、自発的な投資ファンドの終了を対象に、その過程における投資家利益を考慮に入れた一連の投資ファンドの終了に関するグッドプラクティスの策定を目的としている。自発的な投資ファンドの終了は、通常、財務的に健全な投資ファンドであっても、これ以上経済的に存続しえない、乃至意図した目的を提供できないこと、から発生する。これらのケースにおいて、終了に係る判断は、終了に至る要因が外部要因によるものであったとしても、当該投資ファンドを運営する投資運用会社によってなされる。

多くの法域において、保有資産を流動化し投資家へ払い戻すことによって投資ファンドの終了を選択せずに、（多くの場合において当該投資運用会社が運用する）別の投資ファンドとの合併を試みることもある。この点について、IOSCO は、投資ファンドの合併で生じる問題が一般的に投資ファンドの終了過程に特有の影響を及ぼすか検討する。

IOSCOは投資ファンドの終了に関する15のグッドプラクティスを以下のカテゴリに分け、意見を求める。

- ・ 投資する時点の開示
- ・ 終了の決定
- ・ 合併の決定
- ・ 終了過程期間中
- ・ 特定の種類の投資ファンド

本報告書に対するコメントは2016年10月17日まで募集している。